

オリガミアンだより

第32号

2021年1月3日発行

『動植綵絵(2)いん』(全三十幅)のうち『群鶏図』伊藤若冲 NHK 皇室
二〇二〇年十一月七日放映



新春折り紙講座 その2 (第31号からつづく)

折り紙は結構、気難しいところがあるので注意が必要です。

【どちらが上で、どちらが右か？】

ワンピースを思い起してください。上下、左右をしっかりと意識して折らないと作品自体が仕上がりにません。

【折り紙のカット】

何かの作品を折りたい時、理想の大きさ、形をした紙を入手できるとは限りません。大きい紙を4分の1にカットしたり、正方形から白銀比の紙を切り出す——といった作業が次第に増えてきます。

これまでは東急ハンズ5階のカワチで大型カッターを借りてスパッとカットすることが出来ましたが、昨年10月末をもって打ち切られました。今後は自分の力でやるしかありません。

折り紙カットには鋭利なハサミかカッターを使うこととなりますが、これがなかなかの難物です。カッター使用なら物差しを当てて一気に切るわけですが、プラスチック製の物差しだとカッターで切ってしまうことになりかねません。やはり金属製の物差しがある方がよいでしょう。後は狙いを定め、呼吸を一時止めて一気に。これしかないと思います。ぜひ慣れてください。

【左右対称の作品は両方をバランス良く】

片側だけ先に折ってしまうとズレやすいので完成形が左右対称の場合は左右バランスよく折るよう心がけます。

【折りながらも微調整は出来る】

正確な正方形の折り紙は市販されていないと思ってください。これの解決法は折りながら形をよく見て常に微調整をするよう意識することです。これだけで美しい仕上がりになります。

【既に折り上げたところは指でしっかりつまみ形を崩さないこと】

折っている場所のみに気を取られがちですが、既に折り上げたところは指でしっかりつまみ、絶対に形を崩さないこと。この手法をぜひ身につけてください。

【ぴったり折らずに少し控えて】

高等戦術です。紙を何回も折り重ねていくと当然、分厚くなり紙同士が「喧嘩」を始めます。これでは出来上がりがデコボコになり美しく仕上がりにません。「少し控え気味」に折ることがコツです。



1月の練習日にご注意を

お正月がらみで1月の練習日が変則的になっています。1月は12日(火)と26日(火)です。開始時間はいつもと同じです。

1月12日は「孔雀」、26日は「孔雀」と「鬼の顔」です。練習には名札とスリッパもお忘れなく。

